

永久保存版「歌に纏わるエピソード」(逸話)

著作 蚕都暮洲海

2022.3.25

- あ：ああ上野駅（井沢八郎）：石川啄木の「ふるさとの訛なつかし 停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく」をモチーフにしている。上野駅 15 番線と 16 番線の間ホームに啄木の詩碑あり。上野駅広小路口を出て横断歩道前右側に歌碑あり。
- ：ああモンテナルパの夜は更けて（渡辺はま子・宇津美清）：1952 年 1 月歌手渡辺はま子は来日したフィリピンの国会議員ピオ・デユランからフィリピンモンテナルパ市のニュー・ビリビット刑務所に多数の元日本軍兵士が収監されており、すでに 14 人が処刑されたと聞いた。終戦後 7 年も経つのに受刑、死刑を待つ人々がいると聞いた彼女は銀座鳩居堂から香を同刑務所宛て送った。1952 年 6 月渡辺はま子の自宅に楽譜と短い手紙が届いた。楽譜の題名は「モンテナルパの歌」作詞代田銀太郎(憲兵隊少尉)、作曲伊藤正康（陸軍将校）と書いてあった。二人は戦犯としてマニラ軍事裁判で死刑判決を受けた人物だった。この歌は刑務所に収監されていた 111 名の望郷の念を込めた歌だった。渡辺は早速ビクターレコードに持ち込み題名に「ああモンテナルパの夜は更けて」と付けて 20 万枚のヒットとなった。1952 年 12 月 25 日渡辺はニュー・ビリビット刑務所慰問に訪れ 108 名の収容者の前でこの歌を唄った。最後は全員起立しての大合唱になった。この歌のヒットと渡辺はま子等の助命嘆願運動、同曲をおさめたオルゴールを加賀尾秀忍から贈られていたフィリピン共和国大統領エルピディオ・キリノの独立記念日特赦に依って 1953 年 7 月戦犯 108 名全員の日本への帰国が実現した。たった一つの歌が 108 名の命を救った夢のような歴史実話である。
- ：青い山脈（藤山一郎・奈良光枝）：作曲した服部良一は大阪梅田から京都に向かう満員電車にゆられ窓外の六甲山脈の山なみを眺めて曲が浮かんだ。五線譜に書こうと思ったが闇屋一杯の状態でポケットから手帳を出してハ

ーモニカの数学譜でメモして闇屋が闇商品の計算しているように偽装して創った。

- : 愛の讃歌（越路吹雪）：越路吹雪は宝塚時代からの盟友岩谷時子と共に東宝に移籍した。1952年時子36歳の時、劇場公演「巴里の歌」の二葉あきこの代役で急遽、越路が出演する事になった。担当の黛敏郎23歳がエディット・ピアフの「Hymne a I amour」の訳詞を時子に依頼した。黛のピアノ演奏をピアノに手を掛けて何回も聞いている内に時子の口から詞が出てきた「あなたの燃える手で あたしを抱きしめて～心とかす恋よ」愛の讃歌は越路吹雪の代表曲になり時子と二人は越路が亡くなるまで40年間の友情を繋いだ。
- : 青葉城恋歌（さとう宗幸）：仙台のシンガーソングライターさとう宗幸は1977年4月からNHK仙台放送局のFM番組「リクエスト・アワー」のDJに起用された。視聴者投稿の歌詞に曲をつけて放送するコーナーがあった。梅雨時の或る日、仙台在住の星間船一からこの詞が投稿された。さとうはこの詞に曲付けをして番組で流した。幅広い年齢層の女性から大反響があり番組の高木ディレクターとシンコー・ミュージックが大作戦に出た。さとう宗幸とダークダックスの競作になったが、さとうとダークダックスのリード・テナー佐々木行（通称マンガ）は祖母どうしが姉妹のハトコであった。29歳の子連れ歌手盤は100万枚突破、日本レコード大賞新人賞に選ばれNHK紅白歌合戦に初出場した。
- : アカシアの雨がやむとき（西田佐知子）：1960年は日米安保条約改定反対のデモ中に東大生樺美智子さんが死亡したり、岸信介前総理が暴漢に刺されたり、社会党浅沼稲次郎委員長が刺殺されるなど暗い世相だった。ポリドールレコード五十嵐泰弘ディレクターは芹沢光治郎の「巴里に死す」を読み作詞の水木かおるに「巴里に死す」を読んだ感想で作品を頼むと発注した。水木は女性の悲しみの心理描写を一人称で表現したこの作品を

書き上げた。マーキュリー、コロムビア、ポリドールと転社した西田佐知子は雌伏 10 年にして翌年 1961 年発売の「コーヒー・ルンバ」と共に脚光を浴びた。前奏は当時流行の「皆殺しの歌」をもじり、トランペットソロでフューチャーした。

- : 熱き心に (小林旭) : 壮大な土地に老人がポツンと一人の画像、コーヒー A F G マキシムの CM として放送、大瀧詠一の郷愁をそそるメロディー、男と女のプラトニックラブソングである。1985 年 12 月ポリドールから発売され、小林旭は「昔の名前で出ています」以来 10 年振りの大ヒットとなり CM ソングでヒットさせる「レコタイソング」(レコードとタイアップした歌) という言葉が出るようになった。
- : 天城越え (石川さゆり) : 1985 年作詞家吉岡治、作曲家弦哲也、アレンジャー桜葉伸幸が天城湯河原の温泉旅館に 2 泊 3 日で籠りこの歌を作った。テーマは「カラオケで素人が絶対歌えない歌」「石川さゆりしか歌えない歌」、この難易度の高い歌を石川の為に作った。石川さゆりはこの作品を渡された時に「あなたを殺していいですか のくだりを見て仰天しました。歌の主人公は相手を殺したいと思うほどの女性のすさまじい情念と執念を持っています。鳥肌が立ちましたよ。」と述べている。1986 年 7 月発売のこの曲は語りを要求して、抑えに抑えたメロディーがしだいに高揚し、吉岡治の歌詞と弦哲也の曲が目くるめく世界に石川さゆりを誘い込み、ド迫力ある歌に仕上げであり石川さゆりの新境地を切り開いた。
- : 雨の慕情 (八代亜紀) : 1979 年、阿久悠、浜圭介コンビの「舟歌」がヒット、「舟歌」は作詞家阿久悠が「僕だったら美空ひばりさんにこんな詞を書く」と書いたが担当音楽プロデューサー小西良太郎が預かっていた。或る日、その頃ヒットがなかった作曲家浜圭介に小西は「舟歌」を渡した。喜んで作曲した浜は完成テープを小西に渡した、そこにヒット曲がしばらくでていなかった八代亜紀が来た。テープを聞いたレコード会社関係者は

こんな暗い歌は売れるわけがない」しかし大ヒット。翌年の「雨の慕情」で歌謡大賞とレコード大賞の両グランプリを受賞した。

八代独自の唱法は、子守唄がわりに聞いた父親の浪曲と、憧れていたジャズのジュリー・ロンドンやドナ・サマーの唱法をミックスして編んだものという。独特の手振りは広くまねされた。

：アンコ椿は恋の花：(都はるみ)：16歳の北村春美は1964年3月都はるみの芸名で「困ることよ」でデビュー。「困ることよ」は遠藤実作曲だったが発売直後遠藤がミノルフォンレコードを興しコロムビアを去ったため、市川昭介がはるみ担当になった。市川昭介は村松四郎ディレクターから「はるみの歌声を星野哲郎に聞いて貰いたい」と言われ、深夜12時近くにはるみと3人で小金井市の星野宅を訪問、オルガンを弾きながら2曲を歌わせた。

星野は市川に「自分は新しく設立された日本クラウンへの移籍が決まったのでコロムビアの仕事はしないよ」と言っていたが、はるみの炎歌とも言える破天荒な唸りにすっかり魅了されてしまった。3人が帰った後星野はわずか1時間弱で「アンコ椿は恋の花」を書き上げた。目黒の自宅で電話で歌詞を受けた市川は新聞折り込みチラシの裏に全て書き取った。市川は都はるみの小節とパンチの効いた曲を作った。都はるみは「アンコ椿は恋の花」で1964年の日本レコード大賞新人賞、「北の宿から」で1976年の日本レコード大賞グランプリ、「大阪しぐれ」で1980年の日本レコード大賞歌唱賞と誰もなし得なかったレコード大賞の三冠に輝いた。

い：石狩挽歌(北原ミレイ)：作詞のなかにし礼がニシン漁業で失敗した実兄の生き様を歌詞に、本人が一番苦勞して創った歌である。「オンゴロロ」が出るまで1週間かかり、出た時は風呂に入っている妻の所に行き「いやあ、いいのが出来たよ」と。

1コーラス目に「沖を通るは笠戸丸」と入れてあるのが秀逸である。

「笠戸丸」の物語自体が大叙事詩である。

笠戸丸—1900年6月13日イギリス貨客船ポトシとして進水、ロシア義勇艦隊に売却カザンと改名、1904年2月6日日露戦争参戦、1905年5月12日旅順で日本海軍が捕獲笠戸丸に改名、1906年からハワイ・ペルー・メキシコ・ブラジルへの移民船として活躍、1910年から大阪商船が台湾航路・南米航路で使用、1930年から漁業会社のイワシ工船、1945年8月9日カムチャッカ半島で水産加工品積み込み中にソ連軍に拿捕、13時55分ソ連軍爆撃機の空爆を受けて沈没。この歌の時期は1930年~1945年の間である。

う：うそ（中条きよし）：中条きよしは1968年高波晃、1971年渥美健でレコードを出すも売れず、赤坂でスナック営業中の1973年全日本歌謡選手権10週勝ち抜きグランドチャンピオンに、1974年作詞山口洋子・作曲平尾昌晃コンビの「うそ」を中条きよしの芸名でレコード化150万枚の大ヒット、平尾昌晃は銀座「姫」のママ山口洋子に「これママの体験談でしょ」と聞いた。山口洋子は「姫」のホステスからの相談と言った。ある日彼女が久しぶりに彼氏の家に行き「ねえ灰皿とって」と言ったところ灰皿には折れて赤い口紅がついたタバコがあった。「ねえこれって絶対おかしいわよね」と彼女、「折れたタバコ」は男の吸殻だとばかり思っていた平尾昌晃は合点が行った。平尾は麻雀を抜け出して2時間でギターを弾きながら作曲録音して麻雀仲間に聞かせたところ「あーあ」のサビの部分覚えて歌い出したのに驚き「これは売れる」と確信したと言う。

中条きよしは1974年7月15日日本航空124便ハイジャックに客席の一番前で遭遇、緊張状態を経験した。後に参議院議員になるとは。

：上を向いて歩こう（坂本九）：坂本は高校時代ドリフターズのバンドボーイになり、ロカビリーブームの中、歌手になってダニー飯田とパラダイス・キングのバンドアイドルになったが歌は下手。作曲家の中村八大は自らのリサイタルに江利チエミ・石井好子・栗林義信といったジャズ・シャンソン・クラシック畑の第一人者と九を選んだ。坂本九は、一流の歌手に交じって

新曲「上を向いて・・・」を歌う自分の下手さ加減に茫然とした。

楽譜も読めず、歌の基礎のない坂本には、手にあまる歌である。

永六輔はリサイタル当日舞台監督として坂本と初めて会った。永六輔は歌を聞いて耳を疑った。「ウヘッフオムフフィテ アハルコホフホフホフ」なんだこの歌は！九がふざけているとしか思えなかったが、良くみると、九は直立不動、しかも足がガタガタと震えている。中村八大も永六輔も坂本九もこの時、この歌が間違ってもヒットするとは思わなかった。しかしNHKテレビの「夢で逢いましょう」の挿入歌になり大ヒット、さらにアメリカに渡ってタイトルが「スキヤキ」に替り 1963年6月15日全米ヒットチャート（ビルボード誌）第1位に輝き日本人歌手として前人未踏の快挙を成し遂げた。

え：襟裳岬（森進一）：作詞岡本おさみが襟裳岬を訪れた時、叩きつけるような激しい風を避けて民家に立ち寄ると老夫婦が気持ちよく迎え入れてくれ「何もないけどお茶でもいかが」と、冷え切った体に飲んだお茶はとびきり美味だった。「何もない」というが温かく素朴な人情に「これだ！」と思い「襟裳の春は何もない春です」が生まれた。演歌の森にフォークの吉田拓郎が作曲した歌で第16回日本レコード大賞・第5回日本歌謡大賞の両グランプリを受賞した。襟裳とはアイヌ語の「エンルム（岬）」に音をあてて作った言葉である。

お：王将(村田英雄)：レコード界初のミリオンセラー実数100万枚

「なにがなんでも勝たねばならぬ」の歌詞をヨット単独太平洋横断の堀江謙一、日米交渉に臨む前の田中角栄首相が口ずさんだ。作詞西条八十・作曲船村徹・歌手村田英雄の3人とも将棋は得意ではなかったが日本将棋連盟から名誉初段に認定された。村田は父も浪曲師で5歳で酒井の芸名で浪曲デビュー、32枚のレコードを出しても売れず作曲家を恩師の古賀政男から船村徹に変えた途端「王将」でミリオンセラー大ヒット。

：お富さん（春日八郎）：春日八郎は1954年の夏、岡晴夫のピンチヒッター

として「お富さん」という変わった題名の歌を歌わされた。「死んだ筈だよお富さん」に歌舞伎に疎い春日は「お富さんて、誰のことだい」と尋ねた。80万枚の大ヒットになるが、単純明快な二拍子、手拍子、ブギのリズムで当時全盛を極めたパチンコ屋が景気づけに盛んにかけまくり、連発式のはじくテンポに合ったことで一気に盛り上がった。

か：帰って来たヨッパライ（ザ・フォーククルセダース）：京都の3人のアマチュア大学生・加藤和彦、北山修、はしだ・のりひこが学業に専念すると解散を決意し、解散記念にLPを300枚作った中で唯一のオリジナル曲。テープの回転を変えて録音した歌で280万枚の大ヒット

：神田川（かぐや姫）：1973年春、九州から上京し、ヒットに恵まれず行き詰まっていた南こうせつに学生仲間の喜多條忠から電話で「いい詞ができたんだ。ちょっとメモをとってくれ」南こうせつの耳に「あなたは、もう、忘れたかしら」と、喜多條自身が経験した同棲生活の詞であった。因みに喜多條の同棲相手は「ケイさん」、横丁の風呂屋は「安兵衛湯」であった。喜多條の詞を書きとると同時にメロディーが南こうせつから生まれた。「神田川」をシングル盤として強く推したのはクラウンレコードの「艶歌の竜」こと馬淵玄三である。

会議の席上馬淵は、「この曲は歴史に残る名曲になる。これを出さなかったら日本クラウンは一生の恥をかくことになるぞ」と強くシングルカットを推した。「神田川」は、1973年9月20日にシングル発売され翌年にかけて160万枚の大ヒットとなった。NHKから「紅白歌合戦」のオファーがきた時「クレパス」は商標名だから「クレヨン」にかえてほしいと言われたが喜多條は突っ張って譲らず「紅白歌合戦」出場は消えた。「神田川」は男性グループが女性人称で歌ったこと、グループ名がかぐや姫だったことで注目された。結成の下相談をしたところが、竹藪の中だったからかぐや姫と名づけられたのである。「四畳半フォーク」の傑作が生まれた。

き：君恋し（二村定一・フランク永井）：1928年に二村定一歌唱で発売、作詞

時雨音羽が作曲佐々紅華にはじめて歌詞をみせた時、ルポミルスキー作曲の「ダンス・オリエンタル」にヒントを得てジャズのリズムを加えて作曲した佐々作曲の曲をピアノで弾いた。別々の詩と曲が合体してできた歌である。1961年第3回レコード大賞グランプリにフランク永井歌唱で輝く。

：君といつまでも（加山雄三）：往年の二枚目スター・上原謙と女優・小桜葉子の子で生まれた加山は作曲家の団伊玖磨と山田耕筰を尊敬し、そこから「弾厚作」なる名前で曲を作った。それに越路吹雪のマネージャーで作詞家の岩谷時子が詞をつけ、加山が歌って「君といつまでも」「お嫁においで」「夜空を仰いで」「蒼い星くず」など自作・自演の作品を全てヒットさせ500万枚を上回る大記録を達成した。

「君といつまでも」のレコーディング時、1番と2番の間奏時に加山が乗って「幸せだなあ・・・」と言ったところ、そばにいた岩谷時子が「そのセリフ、いいじゃない。入れましょう」となった。

加山雄三と平尾昌晃は慶應高校の同期生で加山は真面目で同期でただ一人無遅刻・無欠席、デカイ弁当を持って学校に来ていたので「ドカベン」というニックネームが付いていたという。

：霧の摩周湖（布施明）：湘南ボーイ作曲家の平尾昌晃が茅ヶ崎の自宅で作詞家の水島哲、布施明と「布施の次の歌はどんな感じの歌にする？」と布施明に聞いたら本人が「昼間泳いでいて気がついたんだけど、やっぱり、海の歌とか渚の歌なんかいいと思うんだけど」平尾昌晃は、さっき海パン姿の布施君を見たけど、どう見ても海の男じゃない。と言って「湖なら？」と言うと水島が「摩周湖だね。知らないかい？あそこはね神秘的なんだよ。いつも霧に閉ざされていて見えないんだ。でも見えるとね、透明度が世界一だ」「霧の摩周湖、いいじゃないの。それで行こう」バーベキューのナプキンに書く水島、ギターを奏でる平尾、唄う布施、夕方から始めて夜中の1時半に完成。ただこの曲は1番とサビの部分しかない。理由はバーベキューのナプキンに書いていた作詞家の水島哲がペロペロに酔って眠ってしまったから

である。酒が大好きな水島は、まさに酒に抱かれて静かに眠っていたのである。

：北上夜曲（多摩幸子&和田弘とマヒナスターズ、ダークダックス、菅原都々子）：岩手県出身で同じ下宿で過ごしていた菊池規（水沢農学校）が1940年12月に作詞、安藤睦夫（旧制八戸中学校）が1941年2月に作曲した。共に作者不詳として、教師の道を歩む。戦後歌声喫茶の楽曲になった。1961年週刊誌「サンデー毎日」が作者不明の愛唱歌として紹介、作曲の安藤が名乗りを上げ、上記3グループが競作で発売され映画化もされた。

日活「北上夜曲」（1961年5月21日・ダークダックス）、大映「北上川の初恋」（1961年5月24日・菅原都々子）、新東宝「北上川悲歌」（1961年5月31日）がそれぞれ公開された。曲として最もヒットしたのは、多摩幸子&和田弘とマヒナスターズのものである。

：北国の春（千昌夫）：1977年1月遠藤実のマネージャー兼作詞家のいではくの作詞をみた瞬間、「僕のさがしていたのは、これだよ。」と言って2階に駆け上がり、たった5～6分で作曲した。作詞のいではくは故郷長野県の八ヶ岳おろしが吹く佐久の風景・年老いた父母・兄弟・恋人をイメージして作詞した。郷愁をわしづかみにされた遠藤は「この詞は、私が本当はどんな曲を書きたかったのかを教えてくれた」と自伝に書いている。2011年3月11日の東日本大震災の後、この歌がリクエスト NO.1 になって復活した。

：北の旅人（石原裕次郎）：作詞山口洋子・作曲弦哲也、裕次郎の体調が悪くなり1小節はハワイで弦哲也立会のもと録音、2・3小節は裕次郎が日本に帰って来て録音した裕次郎最後の歌である。

：銀座の恋の物語（石原裕次郎・牧村句子）当時16歳のジャズ歌手牧村句子が急遽呼ばれて裕次郎の映画撮影の合間に録音した歌。裕次郎から「お前もプロなんだからチャンと唄えよ」と言われた。印税代わりに撮影所地下食堂で天井一杯食べて帰った。印税は一銭も貰っていない。家に帰

って母親から「今日はどんな歌を唄ったの？」と聞かれた牧村は「たしか東京でひとつ、銀座でひとつのような」と答えた。デエット曲で先に女性が唄う歌のため「売れないだろう」と皆が言っていたが映画と共に大ヒットした。

：兄弟船（鳥羽一郎）：鳥羽一郎は三重県鳥羽市生まれ、漁師と海女を両親に持ち鳥羽水産高を卒業、遠海漁業の船乗り、マグロ船、カツオ船に乗って遠くパナマやインド沖で魚を追う生活を5～6年した。この曲は船村徹のメロディーが先行して詞はあとからはめ込んだ。船村は「愛弟子の鳥羽一郎のデビュー曲だから、どうしても星野哲郎の詞でなければならぬ」と言った。星野はこの友情に感激して詞を書いた。星野は旧制の高等商船学校の機関科を出て日魯漁業の船乗りになった。腎臓を悪くして海を断念した星野船員は人の心の海を航海するような、優しさと慈愛に満ちた詞を書く詩人に方向変えした。生涯「今でも漁船となると、まだまだその場に行って網が引ける」と言っていた。星野は鳥羽のために、海の匂いがする海の歌、ほんの一握りの共鳴でも塩を送る友情の詞「塩歌（えんか）」を仕立てた。

く：くちなしの花（渡哲也）：作曲の遠藤実が「今では指輪がまわるほど」が2コーラス目の真ん中にあった歌詞を「一番おいしいところがここではもっていない」と言って1コーラス目の頭に変更、大ヒット

石原裕次郎はこの歌を聞いた時「こんな古い歌、売れるわけないよ。この曲が流行ったら銀座を逆立ちして歩いてもいい」と言っていたが脱帽。

遠藤実はレコード吹込み前の渡哲也に「この歌をピアノで歌っていたら、女性への切々とした思いやりが胸にジーンときて、涙が出てたまらなかった」と説明、渡哲也は遠藤実に「この歌でお泣きになったんですか」と

：黒い花びら（水原弘）：東宝のロカビリー映画「青春を賭けろ」の挿入歌であった。作曲担当の中村八大が締め切り前日、日劇前でラジオ作家の永六輔に偶然会った。面識はあったが二人が話したのはこの日が初めてである。

「あなたは作詞をしたことがありますか?」「いえ、ありません」「じゃ、作詞をする気はありますか?」「あります」「大至急 10 曲つくるんです。手伝ってくれますか?」当時最高級と言われた中村八大の三田東急アパートで永六輔は一晩に 10 曲の歌詞をつくり、「黒い花びら」もあった。曲はポール・アンカのユー・アー・マイ・デスティニーに似た暗いロックバラードだった。最初のプレスはわずか 2000 枚。永六輔は「黒い花びら」を、印税契約もせず 3000 円で売ってしまった。1000 円の儲けになる計算だった。ところが最終的に 100 万枚の大ヒットで「第 1 回レコード大賞」を受賞。受賞の知らせを受けた水原は「レコード大賞? なんだい、それ?」と言ったのは有名な話として残っている。

水原弘はバーテンをしながら独学で歌を学び「文化放送主催素人ジャズのど自慢」で優勝、1957 年、ダニー飯田とパラダイス・キングに加入後、自分のバンド「水原弘とブルー・ソックス」を結成「日劇ウェスタン・カーニバル」に出演し花形歌手になった。このバンドのボーカルから森山加代子、ジェリー藤尾らが出ている。

け：月光仮面は誰でしょう（近藤よし子とキング小鳩会）：1958 年大映の永田雅一社長が「テレビなんて君イ、結局電気紙芝居だよ」という言葉を聞いてネオンサイン等の屋外広告代理店、宣弘社社長小林利雄が「いっそ、その電気芝居を作ってやろうじゃないか」とテレビ映画に手を出した。1956 年渡米した折、「スーパーマン」などのテレビ映画がハリウッドで盛んに制作され人気をはくしている事を見て「俺も、日本で作ってみたい」と国産映画の製作を思い立った。「月光仮面」は孤軍奮闘、国産連続テレビ映画の主題歌第 1 号として大成功を取めた。主演は大瀬康一、仮面をかぶらせたのは、誰でも代役が務まるからである。作詞家阿久悠が明治大学卒業後就職したのが宣弘社、放送作家としてテレビの現場を知りフリーに、宣弘社時代の同僚上村一夫と共に劇画界に進出、阿久悠原作・上村一夫絵の世界へ、後の大作詞家阿久悠が誕生した。

こ：高校三年生（舟木一夫）：舟木のデビュー曲、芸名の舟木一夫は遠藤実がずっと温めていた名前で最初橋幸夫に付ける筈が、橋が吉田正門下になったために舟木に付けた経緯がある。

旧制の中等学校に体が弱いために満足に通えなかった作詞家の丘灯至夫と新制高校に貧しいために行けなかった作曲家遠藤実の上級学校進学への憧れがこの歌になった。舟木は学生服を着て歌ったこの後、「修学旅行」「学園広場」「仲間たち」「あゝ青春の胸の血は」「君たちがいて僕がいた」の「学園ソング」をヒットさせた。

さ：サライ（谷村新司）：日本テレビ系列の「24 時間テレビー愛は地球を救う」1992 年第 15 回記念で加山雄三がギターで作曲、全国視聴者からのメッセージを谷村新司が代表作詞で取り纏めて創った歌である。曲のテーマは「心のふるさと」、サライはペルシャ語の「宿又は家」を表す「サライ」から来ている。

：錆びたナイフ（石原裕次郎）石原慎太郎が弟裕次郎の為に書いた原作の映画主題歌、歌詞は石川啄木の短歌一砂山の砂に 腹這い 初恋のいたみを遠く おもい出づる日一を再構成。

：さすらい（小林旭）：この歌の原曲は太平洋戦争中フィリピンルソン島に駐屯転戦していた兵士達の間で歌われた兵隊節の一つで、作詞・作曲者は不明。曲調から別れか兵隊生活の悲哀を歌った内容かも。復員した兵士の原曲をもとに作詞を西沢爽、作曲を粕林正一が担当した。

小林旭主演「流れ者シリーズ第 3 作目・南海の狼火」の主題歌として 1960 年 9 月公開、翌月コロムビアからレコードが発売されて大ヒット

し：知床旅情（森繁久彌・加藤登紀子）：知床とはアイヌ語のシルエットク（地の果て）が訛った地名である。森繁プロダクション第 1 回作品「地の涯に生きるもの」は 1959 年から 1960 年にかけて北海道知床半島で長期ロケを行った。撮影中に久松静児監督が突然、「ここでひとつ歌が欲しいな。繁さん、何か歌え」と言った。森繁はセットのちゃぶ台に紙片を置き、鉛筆で書きつ

けた。もともとは我が子を戦場に送る惜別の歌だった。ロケ隊本部の羅臼村との別れの前夜7月16日森繁が作詞作曲した「オホーツクの船唄」が完成。夜中24時村長宅に7～8名で押しかけ座敷の障子紙に歌詞を書きギターを弾いて披露した。1965年8月「知床旅情」と改名、加藤登紀子が獄中結婚した夫の藤本敏夫から教わりフォークタッチで1970年11月発売

：知りたくないの(菅原洋一)：1964年売れない歌手菅原にラストチャンスが巡って来た。フランスでヒットしていたシャンソン「恋心」を各社競作、岸洋子、越路吹雪が訳詞で歌っていた。ポリドール担当ディレクター藤原慶子は立教大学生だったなかにし礼に訳詞を頼んだ。B面を何で行くか藤原、菅原、マネージャーの小沢惇、なかにしの4人で協議した。小沢が推薦し菅原が希望したのがアメリカウエスタン歌手エディ・アーノルドの曲「たそがれのワルツ」だった。シャンソンの訳詞から入ったなかにしは原詞を無視「知りたくないの」を書いた。なかにしは各節の出だしを「あ」に書いた。

「過去など」に菅原は歌いにくいと抵抗したがなかにしが押し切って大ヒット。なかにし礼は大作詞家へ、菅原もスター歌手への道が開けた。

す：昴(谷村新司)：石川啄木の歌「悲しき玩具」(カナシキオモチャ)と似ているが谷村は「大学時代に石川啄木を読みました。読んだと言うより食べました。そしてその時食べた糧が、曲や詩となって出てくるのです。それが私の中の啄木です。」と言って否定はしていない。

石川啄木が1909年に発行名義人として創刊した月刊文芸誌が「スバル」である。「悲しき玩具」に収録されている詩は以下である。

—呼吸すれば/胸の中にて 鳴る音あり/凧よりも さびしきその音!

—眼と閉づれど/心にうかぶ何ものなし/さびしくもまた、眼をあけるかな

—新しき明日の来るを信ずといふ/自分の言葉に/嘘はなけれど

せ：惜別の歌(小林旭)：島崎藤村の詩「高樓」(嫁ぐ姉と妹の詩)を友人間、男女間の恋愛に例えた歌、作詞は島崎藤村となっている。

作曲の藤江英輔が1944年中央大学生時に大学に籍を置きながら、板橋の陸

軍造兵廠に配属された時、共に動員された職場の東京女高師の女子学生から島崎藤村の高樓の詩を見せられた。藤江には学徒出陣の友への詩に映りバイオリンを嗜んでいた彼に曲想が浮かび歌になった。戦後復学した中央大学生によって広まったこの学生歌にレコード化の話が出たが島崎藤村は既に他界していた。

この時、藤江が勤務していた新潮社に島崎藤村の三男が通って藤村全集を編んでいる事が判明、快諾を得てまず学生歌として発売、その後の小林旭の歌唱へととなった。

島崎藤村 高樓（たかどの）

妹—とほき わかれに たへかねて このたかどのに のぼるかな
かなしむなかれ わがあねよ たびの ころもを ととのへよ
姉—わかれと いへば むかしより このひとのよの つねなるを
ながるる みずを ながむれば ゆめはずかしき なみだかな

：瀬戸の花嫁（小柳ルミ子）：ある日小柳ルミ子は恩師の作曲家、平尾昌晃やスタッフと雑談していた。20歳になったルミ子に平尾は「ルミ子は、いつお嫁にいくの？」と聞いた。それに対してルミ子は「私はいつまでも歌っていたいから、お嫁には行かないんです」と答えた。平尾は即座に「そうか。じゃあそれならいっそのこと、ルミ子を歌の中で結婚させてしまおう」早速、作詞家の山上路夫に新しい詞を依頼した。山上は数日後2つの詞を作った。「瀬戸の夕焼け」と「峠の花嫁さん」で何かひとつタイトルがピンとこない。皆で話し合っているうちに「この二つをつなげたら、瀬戸の花嫁だね」となり、まず題名が決まった。山上は飛行機の窓から見た瀬戸内海の公害—赤潮を見て、美しい海を汚染する深刻な問題の赤潮と自由な恋愛結婚の時代が重なり、瀬戸内海をテーマにルミ子を歌の中で嫁入りさせたのである。香川県高松駅プラットホームには今日も「瀬戸の花嫁」のメロディーが流れている。

：せんせい（森昌子）：日本テレビ「スター誕生」第7回出場の森昌子は

13歳でグランドチャンピオン第1号になった。阿久悠は縦位置の愛情として「せんせい」を作詞・遠藤実は舟木一夫「高校三年生」の女子中学生版と言うコンセプトで作曲、森昌子は翌年1973年NHK紅白歌合戦に史上最年少で初出場した。

そ：そして、神戸（内山田洋とクールファイブ）：内山田洋とクールファイブは長崎のキャバレー「銀馬車」の専属バンドで、自主製作盤のオリジナル「涙こがした恋」が地元で評判になり、「ロッセ歌のアルバム」の公開録音で長崎で行われた時、バンドの東京パンチョスの指揮者チャーリー石黒が「銀馬車」に立ち寄りクールファイブの歌を聞き、チャーリー石黒の推薦で1969年2月レコードデビュー。「長崎は今日も雨だった」「逢わずに愛して」「噂の女」を連発ヒット。「そして、神戸」は同じRCAビクターの野村真樹がオリジナルで編曲はクールファイブのほぼ全ヒット曲を手がけた森岡賢一郎。「そして、神戸」は曲先行で制作された。音域が広く歌唱難易度が高い浜圭介の曲に、ブラスバンド出身で読譜力の高い千家和也の詞―「誰かうまい 嘘のつける 相手 探すのよ」は秀逸であった。前川清の力強いうねるようなボーカル「そしてひとつが終わり」のサビから後半の「夢の続き〜」へと展開するメロディーの運びは迫力充分である。

た：だんな様（三船和子）：1965年三船和子は新生ミノルフォン専属歌手第1号歌手として17歳で「他人船」をヒット、1968年9月乗っていたタクシーがガードレールと信号機鉄柱に激突し、むち打ちの後遺症で声が出なくなり歌謡界引退。元ミノルフォン歌手緒方龍美と結婚し3児の母になった。或る日いたずら盛りの子供を叱っていて大きな声が出ている事に気づいた。当時33歳、1982年8月東芝レコードからカムバック「家庭演歌」と言うジャンルの作品で14年のブランクを打破、音域も2オクターブと広がり50万枚の大ヒット「家庭演歌」から「家族演歌」へとヒット曲を連発した。

ち：千曲川（五木ひろし）：作詞星野哲郎、作曲猪俣公章で春日はるみ（川中みゆき前芸名）用に作った「笛吹川」が吹込み寸前でペンディングになっている

た。

この曲を聞いた山口洋子は「あらいい曲ね。これ五木君に歌わせよう」と言
って強引に譲り受けた。愛読していた島崎藤村の「千曲川旅情の歌」を思い
出して「千曲川」の歌詞を綴った。1975年に発表された「千曲川」は45万
枚の大ヒットとなった。現在長野県千曲市上山田温泉に「山口洋子千曲川
展示館」（上山田温泉株式会社）があり「千曲川」の歌碑が千曲川沿いの万
葉公園にある。

つ：津軽海峡冬景色（石川さゆり）：石川さゆりのために阿久悠、三木たかしの
コンビが創った12ヶ月旅シリーズの中の1曲。1977年三木たかしの曲が
先にでき「最後は、ああ津軽海峡冬景色で終わってくれ」と阿久悠は頼まれ
た。

メロディーは3・3・3・3・3・4・4・3・3という字数を当てはめる流れ。
阿久悠はこの文字割に「上野」「発の」「夜行」「列車」を引っ張り出した。
2行目で雪の青森駅に着き、5行目には青函連絡船に乗せた。阿久悠の七五
調からの出直しの姿勢の詞であった。この曲で石川さゆりは一躍スターに
なった。

て：てんとう虫のサンバ（チエリッシュ）：1973年3月発売のLPの中の一
曲だったがNHK教育テレビの学校向け放送「音楽の時間」でリズム・メロデ
ィーの教材として取り上げられ幼稚園児からもチエリッシュ宛ファンレタ
ーがくるようになり、7月にシングル盤をリリース。息の長いプライダル・
ソングとして歌われた。二人は歌のように1977年6月3日結婚した。

と：時の流れに身をまかせ（テレサ・テン）：台湾の歌姫鄧麗君（テレサ・テン）
は「空港」（80万枚）のヒット後1979年偽造旅券で不法入国したとして
国外退去になった。本人不在のため有線放送からのヒット作品を考えた。
荒木とよひさ作詞、三木たかし作曲、川口真編曲の3曲、1984年「つぐな
い」（150万枚）、1985年「愛人」（150万枚）、1986年「時の流れに身をま
かせ」（200万枚）有線放送だけのPRで「日本有線放送大賞」と「全日本有

線放送大賞」で3年連続グランプリに輝いた。

な：なみだ恋（八代亜紀）：作詞悠木圭子、作曲鈴木淳の夫婦コンビの歌でそれまで藤田佳子の名で女優をしていたがこの歌のヒットで女優から作詞家に転向した。八代亜紀は「なみだ恋」が120万枚のヒットとなりスター歌手への道が開け東映で映画化もされ本人も映画初出演した。

に：刃傷松の廊下（真山一郎）：1947年華井新の門下に華井満、華井新十郎と改名、歌謡曲を師匠に内緒で吹き込むも師匠にばれて破門となる。歌のため豊田一夫に師事、1957年マーキュリーレコードのプロデューサーが「日本一の山は富士の山、あの山のように一番になれ」との理由で真山一郎と命名。1961年11月キングレコードから「刃傷松の廊下」発売大ヒット、「歌謡浪曲」「演歌浪曲」の第一人者となる。

ぬ：ぬきうち風来坊(宍戸錠)：日活の俳優「エースの錠」こと宍戸錠の歌。映画では韓国に拿捕された漁民の一人として登場、2丁拳銃の早業を見せる。宍戸錠は1955年映画デビュー、翌年豊頬手術を受けて「アクの強い役＝悪役」に転向して活躍した。2001年45年前に豊頬のために注入された異物（オルガノーゲン）を摘出手術で取り除いた。本人曰く「70歳を前にして普通のジジーの顔になりたくてやった」と語っている。イメージチェンジのために豊頬をした俳優は稀であった。

ね：ねむの木の子守唄（佐藤しのぶ・梓みちよ・吉永小百合）：1965年11月秋篠宮誕生に合わせて作曲され献上された子守唄。歌詞は美智子妃が高校時代に書いた詩が用いられ、作曲は山本直純の妻山本正美。1966年梓みちよ、吉永小百合らの歌唱で複数レコード会社から発売されている。2009年には、ニュージーランド出身女性歌手ヘイリー・ウェステンラがこの歌をカバー。美智子妃の実家、旧正田邸跡地の公園には「ねむの木の庭」がある。

：狙いうち（山本リンダ）：1973年2月25日にリリース。この曲は都倉俊一の作曲先行で行われ、都倉が作詞の阿久悠にデモテープを送る際、自ら「ウ

ダダ ウダダ」と唄って録音したものを送ったが阿久悠が送り返してきた歌詞が「ウララ ウララ」となっていたのに愕然とした。「狙いうち」という曲名が「ボールをヒットさせる（打つ）」事を想起させ、作詞の阿久悠がOBだった明治大学応援団が「チャンステーマ曲」として導入、山本リンダから利用の公認を唯一貫っている。高校野球でも1978年ピンクレディーの「サウスポー」と共に応援歌定番曲の一つになっている。

：ネリカン（練鑑）ブルース（藤圭子）：東京少年鑑別所が東京都練馬区に存在する事から「練馬区の少年鑑別所」が略されて練鑑となった。元々作者不詳の楽曲で歌詞は百花繚乱、藤圭子以外にも多くの歌手が唄っている。全国のワルガキ高校生が自校の替歌を作詞して唄っていた。

の：能登半島（石川さゆり）：作詞阿久悠、作曲三木たかしコンビの旅情三部作のひとつ。1977年1月1日発売の「津軽海峡・冬景色」に続き5月10日「能登半島」9月1日「暖流」が発売された。石川さゆりはこの年を「何だか、盆と正月がいっぺんに来たような年だった」と振り返っている。

作詞の阿久悠が「津軽海峡・冬景色」の大ヒット後、「次は出身地の歌を書くから」と言って石川県の「能登半島」を書いてきた。

「苗字が石川だから石川県出身と思って書いて下さったのだろう」と、さゆりはありがたく受け止めたと言う。

翌1978年7月1日石川さゆりの出身地熊本がテーマの「火の国へ」も約束どおりリリースされた。そこには「石川さゆりを一発屋にしてはならない」との阿久悠・三木たかしの執念がこもっていた。

は：花と竜（村田英雄）：火野葦平が実父玉井金五郎と母マンの生き方を小説にし1952年4月から1953年5月まで読売新聞に連載された実話である。歌になり映画化も東映・日活・松竹でされている。アフガニスタンで灌漑事業に生涯を掛けたペシャワール会中村哲医師の母が火野葦平の妹であり中村医師は玉井金五郎の孫である。

ひ：東村山音頭（三橋美智也・下谷二三子/志村けん）：1961年東村山町が市に

昇格する時に農協幹部の肝いりで「東京音頭」に勝るような音頭を作って新生東村山市を大いにPRしようとA面「東村山音頭」は三橋美智也・下谷二三子、B面「多摩湖小唄」は春日八郎・大津美子の豪華盤を作った。15年後ザ・ドリフターズの志村けんがテレビで郷土の東村山市のこの音頭を唄って全国を風靡した。

ふ：釜山港へ帰れ（趙容弼/渥美二郎）：ベトナム戦争で別離を余儀なくされた肉親、恋人、友人を「帰ってこいよ」と祈る民族悲哀の演歌である。1983年趙容弼がNHK出演時この曲を歌って注目された。日本訳では恋人同士のロマンチックな男女の別れに歌いかえられた。渥美二郎、美川憲一、増位山太志郎、日野美歌、北原ミレイ、山口あかりなど16人が競作した。渥美二郎の80万枚、趙容弼の26万枚、李成愛の20万枚など全部で150万枚以上売れた。

：ブルーシャトウ（ジャッキー吉川とブルー・コメッツ）：米国ではブルーを「淋しい」という意によく使う「ブルー・シャトウ」は「淋しい城」。作曲の井上忠夫が作詞の橋本淳と二人ホテルに缶詰めになった時、橋本が「今ブルー・シャトウというヨーロッパの古城イメージの詞がある」と書いて見せた。井上は詞を見てひらめくものがあり、わずか2分ほどで作曲した。ロマンチックな歌詞、美しいメロディー、卓越したアレンジのフォロー、間奏部フルートソロで高い完成度を示した。この曲のヒット後、全国に「ブルー・シャトウ」という名のバー・スナック・喫茶店・キャバレー・ラブホテルが多く出来た。

へ：ペッパー警部（ピンク・レディー）：作詞の阿久悠は「ピンクパンサー」のクルーズ警部、1950年代の曾根史郎のヒット曲「若いお巡りさん」、落語の「くしゃみ講釈」、当時売っていた清涼飲料水「ドクターペッパー」が詞に含まれていると言った。期待されていなかった新人のデビュー曲で当初はB面の予定だったがA面予定の「乾杯お嬢さん」が「これではキャンディーズと何ら変わりがない」と阿久と作曲の都倉が批判してA面に変えさせ

た。実際の歌唱場面ではミニスカートで股を開く土居甫の振り付けに「下品だ」の批判が上がったが阿久、都倉、土居は抵抗して意見を押し通した。アイドルグループ、ピンク・レディーのデビュー曲であり 105 万枚売れた。作曲家都倉俊一は「スター誕生！」で合格した二人をどうスターにするか審査員として考えた。当初ピンク・レディーは「白い風船」と考えられていたが作曲家都倉俊一は「そんな地味な名前じゃ売れない」或る日、関係者とホテルラウンジで二人の話をしたら誰かが「ピンクレディー」というカクテルを注文した。

都倉は思わず膝を叩いて「それだ！」こうしてピンク・レディーは誕生した。

ほ：僕は泣いちっち（守屋浩）：浜口庫之助は実業の世界からミュージシャンを志して、ハワイアンから自身のラテン・バンドである「浜口庫之助とアフロクバーノ」を経て作詞・作曲家に転身した。「僕は泣いちっち」は浜口庫之助のポップス感覚とロカビリアン守屋浩の歌唱センスが融合された「歌謡曲」である。戦後日本の「都市化」「近代化」や、集団就職に象徴される地方と東京の間に見え隠れした、羨望や嫉妬、隔絶の入り混じった感覚、感傷が一体化された歌詞、ロックのもつハネたリズム感を取り入れた斬新さ、楽曲および歌唱の完成度の高さは抜群である。

ま：まつり（北島三郎）：作詞なかにし礼、作曲原譲二、五穀豊穰を願う豊年祭り大漁祭りが躍動感たっぷりに日本の祭りのダイナリズムが表現されている。

作曲原譲二は北島三郎本人である。北島三郎オーナーの競走馬キタサンブラックが 2017 年第 62 回有馬記念で優勝し引退した際に北島はじめ調教師、騎手ら関係者とスタンドの観客が「まつり」を大合唱した。

北島デビューの演出者は当時コロムビアのディレクター斎藤昇だった。

北海道出身だから北の島、長男だけどサブのほうが親しみやすいと三郎と命名した。この芸名を見せられた時、北島は「これだ！」と思ったという。姓名判断をしてもらったら「徳川家康と同じくらいいい名前だ」と

言われたとか・・・

み：魅せられて (ジュデイ・オング)：阿木燿子作詞・筒美京平作曲 1977 年 8 月
プロデューサー酒井政利が「エーゲ海に捧ぐ」の CM ソングとして考えた。
楽曲製作の際、電通は「無名の人にしたい」と言うのを酒井がジュデイに歌わ
せたいから「名前を出さなきゃいいじゃない」と言って初めは覆面歌手扱い
であった。ワコールの CM ソングが出ると「誰が歌っているのか」の声に
ソニーは電通の OK をもらい正式に名前解禁となった。歌う時のドレスは最
初エーゲ海の映像を写すスクリーンドレスの予定だったが間に合わず、急遽
バックから光を当てたら大反響で定番になった。

む：昔の名前で出ています (小林旭)：ゴルフ場経営、不動産投資で莫大な
借金を背負った小林旭が 1975 年に起死回生を狙って出した歌、小林自ら
全国のキャバレーなどをドサ回りして地道にプロモーションを続けた結果
2 年後の 1977 年から実数 270 万枚のロングセラーになり小林旭の最大のヒ
ット曲となり借金返済が出来た。日活の俳優だった昔の小林旭を彷彿させ
る曲名も良かった。小林旭の名前シリーズは「私の名前が変わります」
「もう一度一から出なおします」と続くが 3 曲とも作詞星野哲郎、作曲
叶弦大である。因みに名前は忍・渚・ひろみ/忍・千草・明子/あきこ/と
変わってきている。

め：メリー・ジェーン (つのだひろ)：ドラマーつのだひろが留学生のマーガレ
ット・ハーレーに恋して書いた曲、マーガレットという名前は曲に組み込む
のが難しく彼女の友人メリー・ジェーンの名前を借りた。結局マーガレット
との恋は実らなかった。この曲はスナック・パブ・キャバレー・クラブ等の
営業終了時間帯に流されライトを消しての客とホステスのチークダンスの
定番曲として重用された。日本人が創った曲で世界に通じる随一の曲だと
言われている。

つのだひろは怪奇漫画家・心霊研究家つのだじろうの実弟である。

も：桃色吐息 (高橋真梨子)：作詞家の康珍化は秋田県生まれの韓国籍、この

歌は「中近東風に」の注文で佐藤隆の曲を渡されたが詞が出てこない。

行き詰まって「青息吐息」と思った瞬間「桃色遊戯」という言葉が浮かんだ。

合成語の「桃色吐息」となり一気呵成に歌詞を書き上げた。1984年のレコード大賞作詞賞を受賞した。高橋真梨子は16歳で博多から上京、渡辺プロで歌を勉強、スクール・メイツにも在籍したが求めた路線と違うと博多に帰ってクラブで歌っていたところをペドロ&カプリシャスに誘われ、初代ボーカル・前野曜子が渡米の為脱退した後二代目ボーカルとして迎えられ「ジョニーへの伝言」「五番街のマリーへ」などを連続ヒットさせた。「桃色吐息」は1978年にソロ・シンガーになってから最初のビッグ・ヒットとなった。

や：矢切の渡し（ちあきなおみ・細川たかし）：1976年10月ちあきなおみの歌で「酒場川」のB面で売り出されたが舞台・TVで一度も歌わなかった。

NHKの「新日本紀行」を見ていた作詞の石本美由起は程なく矢切の渡しが無くなる予定を知り歌謡曲として残そうと思った。渡し船がテーマだから道行き（駆け落ち）がよかろうと考えていたら作曲の船村徹もこの番組を見ていて同じ事を考えていたという。ちあきが二人の自信作「矢切の渡し」をレコーディングした時に「こんな暗い歌はつらいので、少し明るいものをもう一曲書いてと所望、」A面「酒場川」を書いた。「下町の玉三郎―梅沢富美男」が舞台でこの歌を流して脚光を浴びた。1983年当時ちあきはビクターに移籍しており、コロムビアは彼女の盤を製造中止にした。その上で細川たかし（コロムビア）、瀬川瑛子（クラウン）、春日八郎と藤野とし恵（キング）などレコード8社の競作になり人気は俄然沸騰した。結果は細川たかしが「北酒場」に続いてレコード大賞V2を達成した曲である。この年の4月柴又の江戸川河川敷に石本美由起の作詞家生活50周年記念で「矢切の渡し」の歌碑が建てられた。

ゆ：有楽町で逢いましょう（フランク永井）：関西の百貨店十合そごうの東京有楽町進出の前宣伝ポスター「有楽町で逢いましょう」を見た作詞家佐伯孝夫は「このコピーはこのまま歌謡曲になる。」佐伯の歌詞を受け取った吉田

正は雨の日に当時アベックの待ち合わせ場所だった有楽町の「喫茶店アマンド」で作曲を始めた。デパート、レコード、映画、雑誌のタイアップ作戦が成功し、1957年11月の発売から人気爆発、そごうはデートコーナーになりレコード売り場は歌謡曲ファンが占領した。フランク永井は朝霞の進駐軍キャンプの下士官クラブでポピュラーソングを歌っている時にフランク永井と命名された。フランクの歌は「魅惑の低音」と呼ばれ吉田正のその後の作品「東京ナイトクラブ」「グッド・ナイト」など一連の「ムード歌謡」につながっていった。吉田正は「この曲のヒットで、作曲家としてようやくメシを食っていける自信を持った。職業欄に作曲家と書けるようになった」と言っている。有楽町は江戸時代初期の大名・茶人織田有楽斎（おだうらくさい）の屋敷のあった場所であり有楽斎は織田信長の弟。兄弟22人（男12人女10人）信長は3男、有楽斎は11男である。

信長、秀吉、家康に仕えた。当初本人は「無楽斎」にしようとしたところ秀吉の「無楽より有楽が良い」の一言で有楽となった。

秀吉が言わなければ今の有楽町は無楽町になっていたかも知れない。

：雪椿（小林幸子）：1987年4月1日小林幸子は12年間所属していた第一プロダクションに1億5千万円の和解金を支払って「幸子プロモーション」を立ち上げ独立。雪椿は再スタート第1弾としてワーナー・パイオニアから6月に発売、新潟の県木である雪椿の花に小林の母イツさんのイメージをダブらせた星野哲郎の詞をワンコーラス読んだだけで小林は感激して泣き出した。星野は新潟出身の遠藤実に作曲を依頼した。同時に第一プロの看板スター千昌夫の恩師である遠藤に依頼する事で独立に依るトラブルを最小限に留めたい星野の配慮だった。1988年NHK紅白歌合戦紅組トリで「雪椿」を歌う小林幸子の目に感激の涙が光っていた。

：雪山賛歌（ダークダックス）：1927年1月群馬県嬭恋村鹿沢温泉を京都帝国大学山岳部の仲間と訪れた西堀榮三郎が吹雪で足留めされた際、「山岳部の歌を作ろう」と言ってアメリカ民謡「いとしのクレメンタイン」のメロデ

ィーに好きな言葉を当て込み作詞した。1950年ダークダックスのメンバー喜早哲が慶應ワグネルのメンバーとして長野県志賀高原を訪れた際に、バスの車掌がこの歌を唄ったのを聴いて初めて存在を知った。

1951年朋文堂の雑誌「山」7月号特集記事で歌詞とメロディーが初めて紹介された。作詞者不詳とされたが、桑原武夫が西堀榮三郎を作詞者として著作権登録の手続きを行った。この著作権印税によって、京都大学山岳部の財政が潤ったという。1971年鹿沢温泉に歌碑「雪山讃歌の碑」が建立された。西堀榮三郎は1922年第三高等学校生の時、ノーベル賞受賞直後に日本を訪問したアインシュタインの通訳として3日間、京都・奈良を観光案内した。アインシュタインは進路に迷っていた西堀に「誰もやったことのない新しいことをやりなさい。一番大事なのは、まずやってみる勇気なのだ」と言った。西堀は其の後、京都帝国大学に入ってから亡くなる迄の53年の人生にこの言葉を深く刻み続けた。東芝技術本部長時代には真空管「ソラ」を開発した。

また1956年～1958年第1次南極観測隊副隊長兼越冬隊長として南極で1年間10人のメンバーを率い世界に日本の名を轟かす観測データを上げた。日本山岳協会会長を歴任し、1973年70歳の時、ネパールの未踏峰ヤルン・カン登山隊長として3週間かけて5500mのベースキャンプまで行き、宇宙塵の収集をした。

滋賀県東近江市に「西堀榮三郎 記念探検の殿堂」がある。

よ：よこはまたそがれ（五木ひろし）：芸名松山まさる、一条英一、三谷謙、五木ひろしは一人の歌手名である。日本にキックボクシングを普及させ真空飛び膝蹴りの沢村忠をスターにした野口修は野口プロモーション歌手第1号として全日本歌謡選手権10週勝ち抜きチャンピオンの五木ひろしをデビューさせた。山口は作家の五木寛之にお願いして五木の苗字を拝借、名前をやさしくして、ひろしと命名した。野口の愛人である山口洋子のよこはまたそがれである。作曲は平尾昌章で彼はこの詞を山口から受けた時に細

切れのような言葉が並んだ詞をどう曲にするか悩んだ。湘南から東京への電車内で横浜が近づくと「次は横浜、横浜」の車内放送に「そうだ間を開ければいいんだ」と頷き曲を作った。

この詞は山口の盗作騒ぎ（ハンガリー詩人アデイ・エンドレのひとり海辺で）、五木が売れなかったら野口は「歌がダメだったらキックボクシングのレフェリーになるといい」と言っていた等話題の多い曲だった。

キックボクシングセコンドが即席マネージャー、銀座のマダム作詞家がアドバイザー、ボクシングジム会長が経営者と「芸能プロダクション」を始め、一条から三谷、一、三の次は五がよかろうと五木寛之に頼み込んで改名した。

1973年野口プロは二つの快挙を成し遂げる。プロスポーツ大賞にキックボクサー沢村忠、第15回日本レコード大賞に五木の「夜空」である。

野口修と山口洋子は40年以上同棲して亡くなる迄、「会長」「先生」と呼び合ったのである。

- ：ヨイトマケの唄（美輪明宏）：1974年本人が作詞・作曲した切っ掛けは、興行主の手違いでの筑豊の嘉穂劇場のコンサートである。きらびやかな衣装でシャンソンを歌っていた美輪は炭鉱町でのコンサートに乗り気ではなかったが、炭鉱労働者達が安い賃金をつぎ込んでチケットを買い、客席を埋め尽くしている光景を見て衝撃を受けた。「これだけ私の歌が聴きたいと集まってくれているのに、私にはこの人達に歌える歌がない」と感じて、労働者を歌う楽曲を作る決意をした。「ヨイトマケ」とは、建設機械が普及していない時代、地固めをする際に、重量のある岩を縄で滑車に吊るし引っ張り上げて落とす時の掛け声であり、「ヨイっと巻け」のかけ声を語源とする。この仕事は日雇い労働者を動員していた。美輪は楽屋のないシャンソン喫茶「銀巴里」で出演後、客席に座っていた際に、東大建築工学科に通う学生と知り合いになり、家族のために働く母と、いじめでグレそうになりながらも学びを続け、立派なエンジニアにまで上がりつめる子供という一連の物

語りの着想元になった。海援隊の「母に捧げるバラード」は歌詞の一部をヨイトマケの唄を模倣して作成された。美輪曰く、後に武田鉄也自身が謝罪に来たという。

ら：ラブ・ストーリーは突然に（小田和正）：この曲はフジテレビのドラマ

「東京ラブストーリー」のテーマ曲として書き下ろされようとしていた。大多亮プロデューサーは小田に作り直しを要請している。自身も映像と音楽のコラボレーションに対して並々ならぬ思いを持っていた小田はその要請に「1週間もらえれば、ぐうの音も出ない曲を作ってみせる」と宣言、この曲を書き上げた。二人のドラマ・曲への妥協なきプライドが名曲になった。

り：リンゴの唄（並木路子、霧島昇）：作詞家サトウハチローは1945年6月

映画「そよかぜ」の主題歌の歌詞を依頼され「日本の軍歌ももっと明るいものにしなければ戦争に勝てない」と軍部に提出したのが「リンゴの唄」だった。1945年10月11日、GHQのCIE（民間情報教育局）校閲パス第1号松竹映画、並木路子主演の「そよかぜ」が封切られた。

並木は1945年3月9日の東京大空襲で母を亡くした。出征していた兄も戦死、会社員の父も乗っていた船が撃沈され亡くなった。初恋の立教大生も学徒出陣で帰らぬ人となった。並木は悲しみの連鎖を抱えたまま、映画のヒロインに起用された。「リンゴの唄」録音の際、作曲した万城目は「もっと明るく」とダメ出しを続けた。並木は後に「(悲しみを)引きずっていました。明るく歌えと言われても無理でした」と語った。事情を知った万城目は「一人だけが不幸じゃない。みんな悲しいんだ。上野に行ってみなさい」と指示した。上野には闇市が立ち並び、戦災孤児も必死に生きていた。並木は「この子たちのために、今を必死に生きようとしている人々のために歌おう」と決意した。上野から戻った並木の声は一変した。

ほほえましい歌詞、短音階ながら行進曲風な明るい曲調、澁刺として弾む並木の歌声は、スクリーンを飛び出して「そよかぜ」のように日本国中を吹き抜けた。サトウハチローは生前、この唄が戦後復興の歌として人気を

集めたことに、「本当は違う、軍歌のつもりで書いた」と苦笑していた。

当時、月給は100円台、闇市で1個5円もしたリンゴは高かった。「リンゴ高いや、高いやリンゴ」の替歌もできた。

る：ルビーの指輪（寺尾聡）：寺尾聡は名優寺尾重吉の息子で1966年ザ・サベージの一員として「いつまでも いつまでも」というヒット曲を出した。寺尾聡プロジェクトの6曲の中の1曲、シングル三部作の締めくくりに登場したのがこの曲であった。勝負をかけた曲に作詞家松本隆を起用した。歌が出来た時、寺尾が当時所属先の石原プロに発売許可を求めたら専務に「こんなお経みたいな歌・・・」と言われしょげていた時、社長の石原裕次郎が「まあ、いいじゃない。出してあげれば」と笑って助け舟を出してくれ、見事ミリオンセラーになり1981年のレコード大賞を獲得した。後に寺尾は映画「雨あがる」で日本アカデミー賞主演男優賞を受賞した。日本レコード大賞と日本アカデミー賞の両方を受賞しているのは寺尾だけである。

れ：恋歌（八代亜紀）：1973年「なみだ恋」が大ヒットした後、トラック運転手達から「トラック野郎の女神」として絶大な支持を得るようになり「八代観音」と呼ばれ八代亜紀の顔を模した観音の絵が描かれたトラックが出現した。これをきっかけに1977年東映映画「トラック野郎・度胸一番星」に女ダンプ運転手「紅弁天」役で出演し「恋歌」が挿入歌として使用された。配給収入も10億9000万円を記録した。本人が実際に運転して撮影したと言っている。本名橋本明代、出身地の熊本県八代（やつしろ）市から八代（やつしろ）に明代から「亜細亜で何世紀も語り継がれるように」との思いを込めて亜紀とした。

ろ：浪曲子守唄（一節太郎）：本名曾我英明（一節）は、郷土新潟の先輩遠藤実を頼って、内弟子第1号として遠藤宅で玄関番、掃除、洗濯、皿洗い、使い走となんでもやらされた。1963年9月6日コロムビア、ビクター、キング、テイチク、東芝、グラモフォンに続く第7の勢力「日本クラウン株

式会社」が発足した。コロムビア専属の遠藤実も誘われたが

「作曲の一番弟子・越純平を派遣してやらせる」と自分の代わりに越をクラウンに送り込んだ。遠藤実作詞・作曲の「浪曲子守唄」を越純平の名で出した。一節は遠藤の指導で喉を潰してドラ声を作った。遠藤は「越純平の名前で発売したために私の作品、特集、全集のアルバムに太郎ちゃんを出してやれない。本当にかわいそうだ」といつも大粒の涙を流していた。

わ：別れのブルース（淡谷のり子）：ブルースを一躍有名にした淡谷のり子が1937年7月に出したのが「別れのブルース」である。作詞家藤浦洸と作曲家服部良一は横浜市本牧のチャブ屋で取材してハマの港町の哀愁をテーマに「本牧ブルース」を書き「歌手は淡谷しかない」と意見一致した。譜面を渡された淡谷は「私はソプラノよ。キーが2オクターブも低いしアルトでもむりよ」と断った。しかし服部は「ブルースはソプラノでもアルトでもない。悲しい音楽、寂しい音楽、翳りを帯びた音楽、これがブルースで魂の歌なんだ。あなたなら歌える。無理でもキー上げずこのキーで歌ってくれ」と説得した。淡谷はハスキーな声にするため吸ったことのないタバコを一晩中ふかし、彼氏とはしご酒をして一睡もせず寝不足でレコーディングに臨んだ。服部はコロムビアを口説いて「別れのブルース」に改題して発売された。淡谷は1938年「雨のブルース」、1939年「東京ブルース」と連続ヒットし「ブルースの女王」と言われるようになった。

：我が人生に悔いなし（石原裕次郎）：作詞のなかにし礼がまだシャンソンの訳詞で食べていた1963年9月新婚旅行で行った静岡県下田東急ホテルで「太平洋ひとりぼっち」の映画ロケで来ていた石原裕次郎に会った。100人ぐらいがバーカウンターの裕次郎を遠まきでみていた時に、なかにし礼夫婦が手招きされた。

裕次郎曰く「中井専務とカップル品評会をしていたが君たちが一番だから呼んだよ」横に座ると「何やって食っているんだい」「シャンソンの訳詞です」「シャンソンじゃ食えないから歌謡曲の作詞をしたらどう、歌謡曲を作

って早く持って来い」裕次郎 28 歳なかにし礼 25 歳の時である。1 年後の 1964 年なかにしは自分が作詞・作曲した曲を石原プロに持ち込んだ。なんの音沙汰がないままの 1965 年秋に石原プロから「長らくお待たせしました。あなたの曲を裕圭子&ロス・インディオスで出します」と連絡が入った。1966 年かつて一緒に仕事した田代美代子がカーラジオから流れるこの歌が作詞・作曲なかにし礼と聞き、なかにしに「私に歌わせて」と連絡、なかにしも「うれしいな」と承諾した。

田代美代子&和田弘とマヒナスターズが歌った、なかにし礼デビュー曲「涙と雨にぬれて」は 40 万枚のヒットになった。

裕次郎が歌謡曲作詞の道へ導いてくれた一言が実を結んだのだ。

なかにし礼は其の後日本を代表する作詞家になった。

裕次郎は病魔に侵され「断酒」を通告された後も夜中にリビングルームで隠れて酒を飲んでいて。その時サイドボードに写った自分の顔の話をなかにし礼に話した。なかにしはそれを作詞した。なかにしの裕次郎に対する「恩返し」の意味を込めて。作曲は加藤登紀子が裕次郎の思いを込めて作り上げた。

※よもやま話

1. 歌には「男歌」「女歌」がある。男性が歌う「男歌」「女歌」女性が歌う「男歌」「女歌」がある。
2. 歌には「W 型」高音から始まり低音にまた高音に、低音、最後は高音で終わる歌。
「M 型」低音から始まり高音、低音、高音、最後は低音で終わる歌
3. たった 3 分の歌曲の中に人生・物語の起承転結を表現するのが歌謡曲である。
4. 「七五調」「七七調」が基本に流れているのが歌謡曲である。

※参考文献：「昭和歌謡」長田暁二

「昭和の流行歌物語」塩澤実信

「昭和のヒット歌謡物語」 塩澤実信

「歌謡曲」 高 護

「あの素晴らしい曲をもう一度」 富澤一誠

「ユーミン・陽水からみゆきまで」 富澤一誠

「昭和歌謡 1945～1989 歌謡曲黄金期のラブソングと日本人」

平尾昌晃